

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 中部山岳国立公園トレッキング・ツーリズム推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 観光企画課 政策企画係 電話番号：058-272-1111(内3915)

E-mail：c11334@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,000 千円 (前年度予算額： 4,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,000	1,897	0	0	0	0	0	0	2,103
要求額	4,000	1,952	0	0	0	0	0	0	2,048
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- 令和3年4月に「松本高山Big Bridge構想実現プロジェクト」（事務局：環境省）が発足し、中部山岳国立公園を含む松本市と高山市を繋ぐ地域が広域的な観光ルートの中核となるよう、官民一体となった取組みが進められている。本事業は、実際の誘客に資するものとして同プロジェクトの一翼を担うものとなる。
- また、本事業で取り組む飛騨地域の自然資源は、「サステイナブル・ツーリズム」に資する本県の強みの一つであり、新型コロナの影響を強く受けた観光需要の早期回復のためにも、魅力を強く打ち出していく必要がある。
- 本事業では、令和2年度まで大手山岳メディア等と連携したプロモーション等により主に登山経験者を対象としてきたが、令和3年度以降は未経験者（トレッキング等に興味はあるが参加できない層）や初心者層をターゲットに、トレッキングと観光の魅力を共に発信することで、宿泊予約等に誘導し観光客の増加と消費喚起を図っているところ。
- 令和5年は、今年9月に路面崩落した乗鞍スカイライン全面通行止めによる登山客等の岐阜県側来訪の減少が懸念されていることから、北アルプス山岳から市街地等への周遊促進への取組みを推進し、観光客の増加と消費喚起を図る。

(2) 事業内容

- 登山などの未経験をターゲットに中部山岳国立公園内の山岳資源の他、飛騨地域の自然資源やNEXT GIFU HERITAGE ～岐阜未来遺産～等の魅力を発信し、併せて滞在期間の延長や自然資源の周遊に繋がるような企画を実施することにより、客層の拡大、宿泊及び周遊促進に繋げる。
 - トレッキング及び自然資源の魅力の発信
 - 来訪のきっかけとなるキャンペーン企画開催
 - 宿泊等の予約に誘導する仕組みの構築
 - 他団体との連携及びフォローアップ（事業効果測定）

(3) 県負担・補助率の考え方
県負担

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	32	プロポーザル評価会議
旅費	53	職員旅費、プロポーザル評価会議費用弁償
需用費（消耗品）	5	消耗品
需用費（会議費）	5	プロポーザル評価会議
委託料	3,905	事業委託
合計	4,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「岐阜県中部山岳国立公園活性化基本構想」
- ・「岐阜県成長・雇用戦略2017」

(2) 国・他県の状況

- ・中部山岳国立公園は、環境省「国立公園満喫プロジェクト」の準モデル公園として位置付けられている

(3) 後年度の財政負担

- ・新たな誘客対策の柱として継続的に取り組む必要があるため、後年度も継続

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・地域全域における事業であるため、県が事業主体となることは妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

中部山岳国立公園（県内エリア）について、トレッキングの魅力と併せて麓地域での観光周遊及び宿泊を提案することにより、観光客の増加と地域の消費喚起につなげる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
①観光消費額		1,721億円	2,400億円	2,900億円	3,300億円	52.2%
②観光入込客数 (実数)		3,842万人	4,000万人	4,800万人	4,900万人	78.4%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<p>大手山岳メディア等を活用したプロモーションを実施した。 登山経験者をターゲットに、北アルプスや乗鞍岳等の中部山岳国立公園（県内エリア）とその周辺観光資源の魅力を発信できた。</p>
令和 3 年度	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> <hr/> <p>指標① 目標：1,900億円 実績：1,721億円 達成率：90.6 %</p>
令和 4 年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <hr/> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>(公財)日本生産性本部の「レジャー白書」によれば、近年、健康増進を目的とした登山者が増えており、また、「国民の祝日 山の日」の施行により再び登山ブームが訪れている。こうした中、中部山岳国立公園が「国立公園満喫プロジェクト」の準モデル公園に位置付けられ、誘客拡大の絶好の機会を迎えており、集中的に魅力発信及び受入環境整備を進めることが効果的である。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	<p>大手山岳メディア等を活用した多様なプロモーションを継続してきたことにより、登山経験者に対する本県の山岳をプロモーションには、一定の成果が上がっている。</p>
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p>	
(評価) 1	<p>大手山岳専門メディアを活用するなど、ターゲットに応じたPRを行ってきており、効率化は図られている。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 中部山岳国立公園エリアへの新たな観光客の来訪や宿泊・周遊の促進を図っていく必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 「松本高山Big Bridge構想実現プロジェクト」の発足、サステイナブル・ツーリズムへの関心の高まり等により、中部山岳国立公園(県内エリア)及びその周辺地域への国内外からの誘客は継続的な取組みが大切であり、引き続き、当該資源のプロモーション等に取り組む。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	<p>【〇〇課】</p>